

中学生がまちづくりを考える

市内中学生による「子ども議会」開催

市内の中学生が産業や環境、教育、福祉などの市政課題について市長に質問する「子ども議会」が11月29日、市議会議場で開催されました。

この事業は中学生のまちづくりや行政への関心を高め、子どもの視点からの意見・要望を市政に反映してもらおうと、とめ青年会議所（佐藤剛理事長）が主催し、初めて実現したものです。

子ども議会には市内の各中



登壇し、市政についての質問をする中学生議員

学校から20人が参加し、佐々木俊樹君（津山中3年）が議長、宇田川祐治君（新田中3年）が副議長を務め、議事を進行了ました。

子どもたちからは「みんなで作る、わがまち登米市」をテーマに「小中一貫教育の利点」や「長沼や伊豆沼などの環境保全対策」、「大型店の進出による地元商店に対する対策」など、市政について多くの質問が出され、布施市長



質問に対して答弁する布施市長

や佐藤教育長が「9年間の中で勉強を振り返ったり、確認したりできる」「下水道事業への取り組みのほか、増え過ぎたハスの有効活用も始めている」「市内商店街と協力して地域商品券の発行や、経営するための資金援助などをしていく」などと答弁しました。

傍聴席には、中学生議員の発言を聞こうと、学校関係者や保護者など多くの皆さんが傍聴に訪れていました。



子ども議会に参加した中学生の皆さん

大勢の参加者が健脚を競う

第23回カップパーフマラソンとよま産業まつり

第23回カップパーフマラソン（同実行委員会主催）が11月23日、登米、中田両町にわたる、みやぎ北上連邦長距離競走路で開催されました。

大会には県内外から過去最高の2286人が出場し、8



2,286人の参加者がそれぞれ健脚を競いました

種目28部門で健脚を競いました。

大会では、布施市長の合図によって公認ハーフの部がスタート。それぞれの部門でも小学生から大人まで、力強い走りで見事な走りを見せました。中にはスパイダーマンや甲冑姿、カップパの格好をしたランナーもいて、沿道の観衆を楽しませました。

また、競技後には、主催者からランナーや応援客に登米町名物の油麩が入った温かいみそ汁が振る舞われました。

主会場では「とよま産業まつり」も同時に開催。とよま産の牛肉と豚肉の試食や地場産品などの販売コーナーも設けられ、大勢の人でにぎわった一日となりました。



登米町名物の油麩が入ったみそ汁が振る舞われました

職人から学ぶ食の大切さ

学童クラブ「お楽しみ食育講座」

食べ物を通して食の大切さを考えようと、中田、宝江、上沼、石森の4つの学童クラブが取り組む「お楽しみ食育講座」が10月から11月までの間、各学童クラブで行われ、地元のスシ店（寿司重）の榎原重勝さんが子どもたちに握り



子どもたちから手作りのプレゼントが贈られました

たてのスシを振る舞いました。

講座では、教室内に特設カウンターを設置。榎原さんが、地元産のササニシキを使い、蒸しエビやマグロ、卵、カツパ巻など子どもたちが好きな食材を目の前で次々と握り、子どもたちは手早い職人技に驚きながら、本格的なすしをおいしくいただきました。中にはわさび入りに挑戦し、大人の味を楽しんだ子どももいました。



榎原さんの見事な手さばきにびっくり

佐藤聖也くん（石森小3年）は「どれもとてもおいしかったです。おすしを握るのが早くてびっくりした」榎原さんは「すしを通して日本の食文化や伝統を子どもたちに伝え、地産地消などにも関心を持ってほしい」と話していました。

特色あるはつとが勢ぞろい

第5回全国はつとフェスティバル

登米地方に藩政時代から伝わりとされ、郷土料理として親しまれている「はつと」をより多くの人に知ってもらおうと、第5回全国はつとフェスティバル（同実行委員会主催）が12月7日、中江中央公園で開催され、家族連れなど約1万人がはつとを堪能しようとして訪れました。

会場には県内と岩手、福島山梨の3県から33店舗が出展し、地元食材をふんだんに使

用した「油ふ入り汁はつと」や「あずきはつと」「ずんだはつと」などのほか、「海鮮はつと」や「イタリアンはつと」など、各店がそれぞれ工夫を凝らした38種類のはつとが販売されました。

そのほかにも、吉川団十郎さんの「はつとの唄」に振り付けた新田婦人会による「はつと踊り」や太鼓演奏、バンド演奏、よさこい踊りなどの多彩なステージイベントや

はつと3杯で1回の抽選に参加でき、登米市産米粉などの地場産品が当たるお楽しみ抽選会も行われ、訪れた人たちはお目当てのはつとの味を楽しみました。

飯塚哲朗実行委員長（東和）は「このイベントは今年で5回目を迎えました。登米市の郷土料理であるはつとをさらにPRし、登米市の食文化として定着させていきたい」と話していました。



はつとを食べようと訪れた来場者でにぎわう会場



熱々のはつとで寒さも吹き飛びました



地場産品が当たる抽選コーナーには行列ができました